

新着図書情報

泗水図書館

**潜水服は蝶の夢を見る** ジャン＝ドミニック・ポービー 著  
ELEEEの名編集長として、世界を駆け回っていた42歳のジャン＝ドミニック。ある日突然、脳出血で倒れ「ロケットイン・シンドローム」という難病で身体的自由を奪われてしまう。唯一動くのは左目だけ。その瞬き20万回で綴られた、大切な友達や家族への想いが詰まった人生へのラブレター。昨年のカンヌ映画祭監督賞受賞の話題作。

**30%の幸せ** 内海隆一郎 著  
古道奥屋に巡ってきたカメラに残されていたフィルム。そこに映っていたのは、病院のベッドに腰掛けた母親が赤ん坊に頬ずりしている様だった。手がかりは壁に貼られた「昭和46年4月28日 出生 命名 昭夫 長男」そこから写真の主を探することに……。切り取られた街角の片隅の小さな物語を短編の名手が描き出す。静かに心にしみ入る一冊。

**手拭い弁之助** 南原幹雄 著  
手拭い一本を武器にして、裏社会の悪を懲らす芝居茶屋の主、江戸屋弁之助。遊び仲間が目明し鶴吉とともに芝居興行に絡んだ犯罪を暴いていく……。江戸の人情を余すことなく描き出した傑作小説。

**奇縁まんだら** 瀬戸内寂聴 著  
生きるということは、日々新たな縁を結ぶということ。物書きになり、個性の際立った数々の作家たちとの出会いが、今となっては宝物の様に有り難いと語る著者。三島由紀夫、谷崎潤一郎などの肉声を聞き、飾らない表情を捉えた粋なエッセイ。横尾忠則の挿画も見どころの一冊。

**愛するあなたへの悪口** 村松知視 編  
「おい息子 嫁さんまだか あれこれお前が使って あれは俺の恋女房」これは静岡県島田市御陣屋稲荷、通称「悪口稲荷」で毎年開催される「愛するあなたへの悪口コンテスト」の入選作。思わず笑いがこぼれる秀作ぞろい。審査委員長の作家村松友視の選評も味わい深い一冊。

**Re-born はじまりの一步** 伊坂幸太郎 ほか  
受験に失敗し、何とか決まった大学へは足が遠のいていた克彦。プールに通うことで気を紛らす日々。ひよんなことから初老の男、佐山の泳ぎをコーチすることになり、この出会いが彼を変えていくことに。迷い、揺れ、苦しんだ末に選り出した、「これが私の生きる道」とは、今、注目の7人の作家が描く、それぞれの新たな出会いと出発の物語。

**産める国フランスの子育て事情 - 出生率はなぜ高いのか -** 牧陽子 著  
少子高齢化が進む日本にとって「少子高齢化対策」は国の大きな問題。「子どもがほしい」と思ったとき、日本は産みやすい、育てやすい社会だろうか。高い出生率で注目を浴びているフランスで出産、子育てを経験した著者が本当の「産める理由」を紹介した一冊。

**あ〜勘違い運転術 あなたがやってるダメ運転、ケン操作…** 山口宗久 著  
今日、無事家に帰ることができて、明日同じように無事通る保証はない。車を運転するということは、危険の隣りに身を置くこと。交通事故で取り返しのつかない損傷を負わなくてはすむように、安全で快適に車を楽しめる鉄則を、直感的に習得できる一冊。

**徹底図解からだのしくみ** 水野嘉夫 監修  
科学の進歩により、新しい医療機器で人の体の細部まで見ることができるようになった。遺伝子レベルでの研究も進み、その知識は、医療に応用され様々な治療に役立っている。豊富なイラストと解説により、多面的見方から私達の体について説明し、健康の保持に役立つ本。

**これだけは知っておきたい日本の家ねずみ問題** 矢部辰夫 著  
1990年代以降、クマネズミは都心のビルだけでなく住宅街にも移り住むようになった。ネズミによる各種の被害と彼らの生態の関係を明らかにし、今後の駆除・防除手段として生かせるよう、研究を通して確かめた事実を紹介した本。

**そらまめとわらとすみ** 川上越子 絵  
一緒に旅に出たそらまめと、わらと、すみ。しばらく行くと川に突き当たってしまいました。渡れずに困っていると、わらがいいことを思いついて……。?そらまめの腹にはどうして黒い筋が通っているのかを伝える日本伝承のむかしばなし。軽快な文章でくりかえし楽しめる絵本。

**ケーキさんのゆうれい** ジャクリーン・K・オグバン 作/マジョリー・プライスマン 絵  
ジャクリーン・K・オグバン 作/マジョリー・プライスマン 絵  
町一番のケーキ屋だったコーラ・リーは、売りに出された店にゆうれいとなって現れる。そんな時、船のシェフだったアニーが登場し、ゆうれいと取引する。ゆうれいの嫌がらせはコミカルで、次々と焼かれるケーキはどれもおいしそう。ホロリとする結末が待っています。最後に、ゆうれいもよろこぶケーキレシピ付きの絵本。

**なかなおり** シャーロット・ソトウ 文/アーノルド・ローベル 絵  
じゃあじゃあ降りの雨の朝、パパがお出かけのキスを忘れたのでママは息子にやつあたり。息子は姉さんにやつあたり、姉さんは友人に……。不機嫌は広がっていきます。ところが、あるきっかけによって仲直りの連鎖へ。本当は誰でも「仲よし」が好きなのに、どうしてけんかや仲たがいが起きるのかわかる絵本。

**フュージョン** 濱野京子 著  
どこへ行きたいんだろう、あたし。違う、帰りたいだけだ。中学2年生の朋花は、イライラした気持ちを晴らすため今日もひたすらペダルを漕ぐ。目的地もないままどり着いた公園には、2本の縄を軽快に飛び同級生の超優等生とヤンキーがいた! ?いま人気のスポーツを題材に、少女たちの成長を描いた感動のYA小説。

**先生と老犬とぼく** ルイス・サッカー 作  
担任の先生が留守の間、老犬オールドの世話をたのまれたマーヴィン。はじめてのアルバイトに、友達からもうらやましがられ、はりきって先生の家に向かいます。しかし、なぜかオールドはまったく餌を食べてくれなくて……。マーヴィン・レッドポストシリーズ4作目。

**中央公民館図書室**  
**フラミンゴの家** 伊藤たかみ 著  
別れた妻が入院することになり、一夏だけ娘を預かることになった正人。少しでも好印象をもたれようと普段は着ないポロシャツ姿で、駅に迎えに行ったが、自慢の愛車を見た娘は呆れてしまう。滑稽でありながらも、切ない家族の物語。

**キャベツ** 石井睦美 著  
大学生のぼくの趣味は、料理と読書と妄想。どれも父を亡くし、母が働き出してから始めた。今日も主婦になったつもりで夕ご飯の準備をする。ある日、妹が可愛らしい友人を連れて来た。妹がその友人とデートするように勧めてきて、ぼくは困惑した。

**親子で身体いきいき古武術あそび** 岡田慎一郎 著  
筋力に頼らず、身体に負担をかけない。そんな古武術を参考にした親子で楽しめる遊びの数々を紹介。綱引きで勝つ秘訣や上手な転び方、疲れにくい動き方のコツなどを、「小さな力で大きな力を出す」「疲れない」「ケガをしなくなる身体の使い方」の各章ごとに学べる一冊。

**しろい虹** 石田千 著  
幼稚園の頃、はじめて覚えた花の名前は、桜でもチューリップでもなく、幼稚園にあった泰山木の花だった。白い花を見つけるたびに、その大きな幹に抱きついた。紙で作った花をバラではなく泰山木だと言い張り、ケンカしたあのころ。何気ない日常を描いたエッセイ集。

**らいおんのがお** てらむらてろお 文/ただひろし 絵  
らいおんの「がお」は、いじめっこなので、誰も一緒に遊ぼうとはしなかった。がおは、バナナを食べさせたら、誰かが遊んでくれるのではないかと考え、うさぎをさそった。しかし、うさぎは逃げようとする。そこで、がおは逃げるうさぎをつかまえて……。

秋祭りに再会するといふ約束を果たせないまま月日は流れ、村人と鬼との争いが始まり、2人は……。元々は太鼓舞踊劇用に作られた脚本の絵本版だそう、文章も、あえて明確な表現をせず、読む人の想像に任せてはいますが、毎

回読むたびに最期の悲しい結末にたどりつき、必ず涙してしまいます。村での流行病を治すためとはいえ、鬼の聖域に入り、だまし打ちにする村人はちよっと許せません。それでも村人によって傷つけられた鬼は蓮に爪を立てず、蓮は傷ついた鬼にやさしく振る舞うところがとても悲しく感動的でした。人のやさしい気持ちも育んでくれる本だと思えます。子どもさんだけでなく、いろいろな世代の人に読んでいただきたい一冊です。

私の推薦

花 <sup>ハナ</sup> 鬼 <sup>オニ</sup>  
物語の最初と最後に効果的に使われている太鼓の音「デデック デデック デデック」が印象的なこの物語は、鬼の聖域「穢れの園」に迷い込んでしまった薬師の娘・蓮とそこで出会った一人の童子とのお話です。

藤沢大介・作、小林敏也・画  
中村朱實さん (㊦ 高柳)



目より情報

**ガーデニング写真募集中**  
6月1日(日)から6月29日(日)まで、野の花やガーデニングの写真を展示しています。期間中は引き続き写真を募集していますので、展示希望の人はカウンターまでお持ちください。(泗水図書館)

**お楽しみ会**  
6月15日(日)午後2時からのお楽しみ会は七夕の飾りつけをします。どなたでもお気軽にお越しください。(泗水図書館)

**熊本にも縁のある作家・小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の誕生日**  
日本をこよなく愛した、文芸評論家で随筆家、小説家でもあった小泉八雲は、1850年6月27日、ギリシャに生まれました。もとは、ラフカディオ・ハーンと言います。アイルランドで育った八雲は、19歳のときにアメリカに渡り、新聞記者となりました。1890年、新聞社の通信員として来日した八雲でしたが、島根県で中学校の教員となりました。その後、第五高等学校(いまの熊本大学)、東京大学で英米文学を教えながら、日本の風俗や伝説を研究し、日本を海外で紹介しました。日本の古典や民話を元にした短篇集「怪談」には、「むじな」や「雪女」などが入っています。(中央公民館図書室)

問い合わせ先  
中央公民館図書室 ☎ (25) 1672  
七城公民館図書室 ☎ (25) 1580  
旭志公民館図書室 ☎ (37) 3111 内線 303  
泗水図書館 ☎ (38) 6866

6月の予定

	中央公民館 図書室	七城公民館 図書室	旭志公民館 図書室	泗水図書館
1 日	閉室日	閉室日	閉室日	
2 月				休館日
3 火				
4 水				
5 木				
6 金				
7 土			閉室日	
8 日	閉室日	閉室日	閉室日	
9 月				休館日
10 火				
11 水				
12 木				
13 金				
14 土	きくちおはなしのもり おはなしかい 10:30~		閉室日	しすいっ子 童話会のおは なしかい 11:00~
15 日	閉室日	閉室日	閉室日	お楽しみ会 14:00~
16 月				休館日
17 火				
18 水				
19 木				
20 金				おはなしの 部屋 11:00~
21 土			閉室日	古典を楽しむ 会 14:00~
22 日	閉室日	閉室日	閉室日	
23 月				休館日
24 火				
25 水				
26 木				
27 金				
28 土	きくちおはなしのもり おはなしかい 10:30~		閉室日	しすいっ子 童話会のおは なしかい 11:00~
29 日	閉室日	閉室日	閉室日	
30 月				休館日
1 火				休館日